

「日本のアート産業に関する市場調査 2020」を実施。
日本の美術品市場規模は 2,363 億円。4-5 月の緊急事態宣言の影響もあり、約 8.4%減。
 過去の美術品の価格推移を分析し、美術品の資産性調査も実施

一般社団法人 アート東京(以下、アート東京)は、5年目となる「日本のアート産業に関する市場調査を行いました。約二万人を対象とした購入動向調査により、日本全体の美術品市場規模を 2,363 億円と推計。昨年からの減少率は約 8.4%の減少となりました。これは欧米のアート先進国で 20%以上の減少となる中で、限定的な減少幅となりました。

その結果、世界の美術品市場における割合を推計すると、2019年の世界の市場規模(7.0兆円)に対して日本(国内事業者の市場規模・2,270億円)は 3.2%と推計されます。

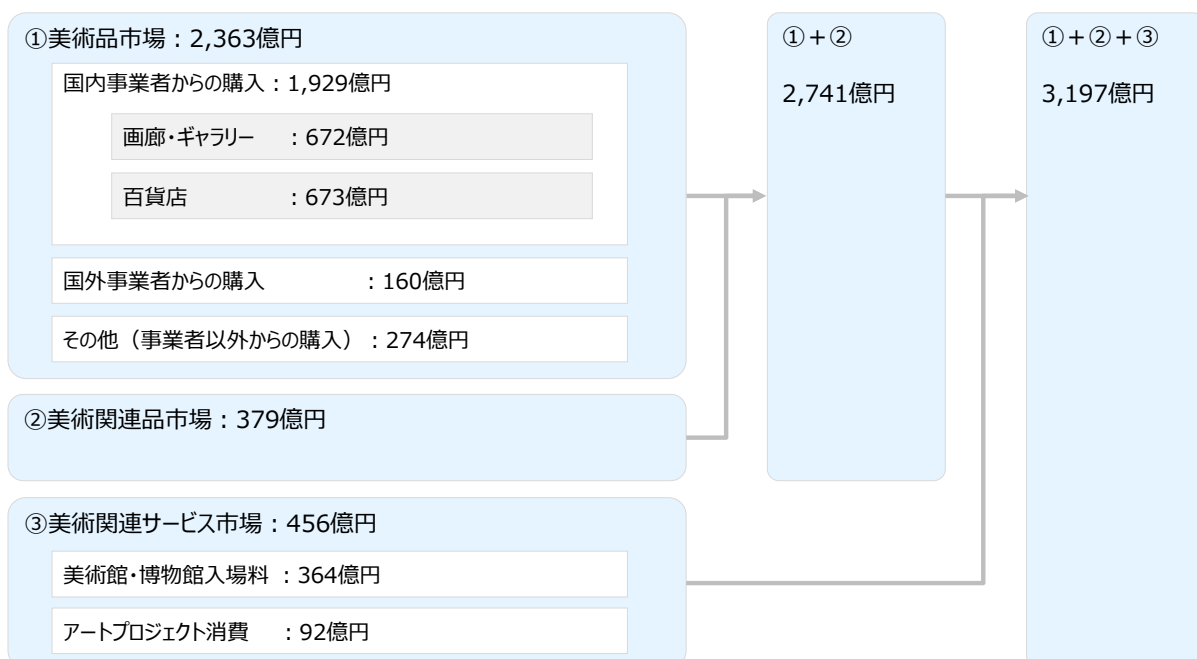
同時に、美術鑑賞と購入の関連性を調査し、展覧会の市場拡大への寄与を検討いたしました。

本調査では、アンケートによる動向調査にとどまらず、過去の美術品の価格動向を調査・分析して、美術品が資産性についても考察いたしました。そして新たに国内アートオークションの売買データを分析し、美術品には、経年による減価するもの(美術工芸品と呼ぶ)、に対して、一定の原資産価値を有し、資産とみなせるものもあることを結論づけました。

美術品、美術関連品、美術関連サービスの市場規模

アート産業に関する市場規模として、古美術や洋画・彫刻・現代美術などの「①美術品市場」を 2,363 億円と推計。合わせて、グッズやカタログなどの「②美術関連品市場」が 379 億円、美術館入場料や日本各地で開催される芸術祭消費額を含む「③美術関連サービス市場」が 456 億円となり、3つの市場を対象とした総額は推計 3,197 億円となりました。

図表 1.アート産業に関する市場規模の全体像



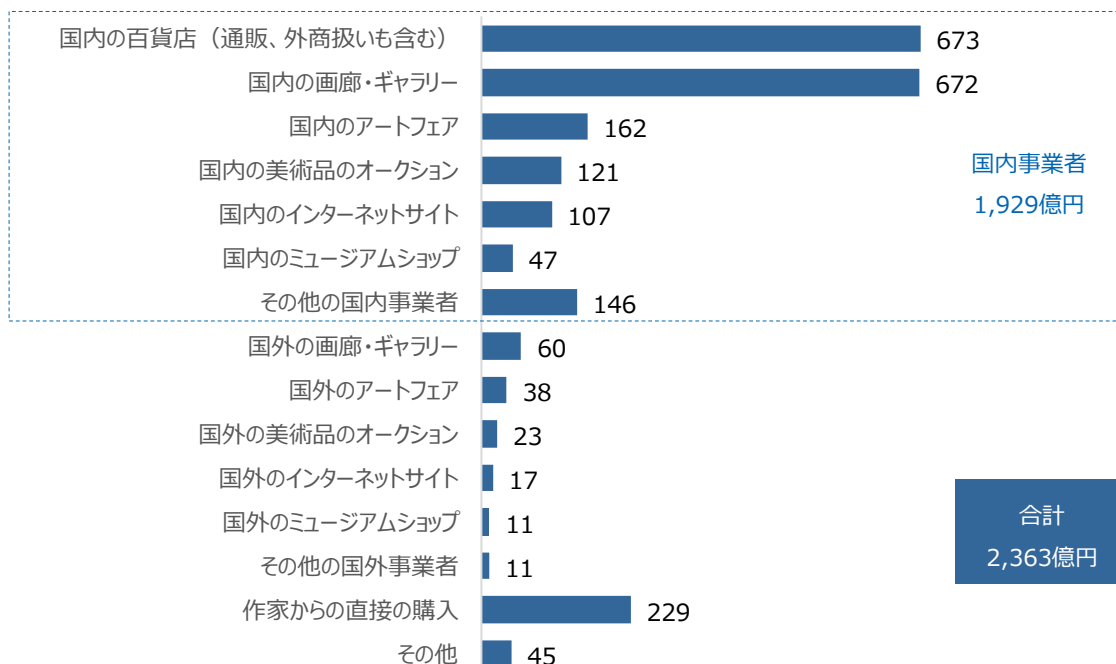
出所)「日本のアート産業に関する市場調査 2020」(一社)アート東京・(一社)芸術と創造

画廊・ギャラリー、百貨店という主要チャネルに続き、インターネットが拡大傾向

美術品市場 2,363 億円を販売チャネル別に見ると、2 大チャネルである百貨店が 673 億円とコロナ禍にも関わらず数字を伸ばし、約 31% の大幅減少となった国内の画廊ギャラリー 672 億円に並びました。

図表 2 チャネル別の美術品市場規模

(n=23,706)



国内事業者
1,929億円

合計
2,363億円

※「国内の美術品のオークション」の値は、Artprice.comが推計した日本国内オークション会社の落札額合計を採用している。

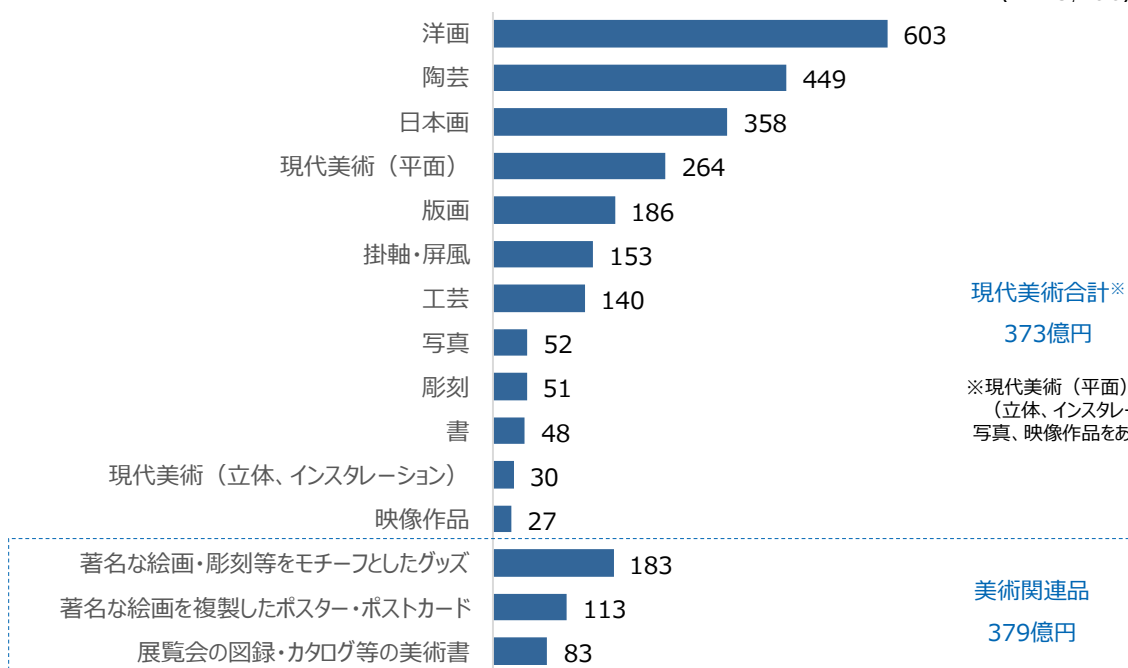
出所)「日本のアート産業に関する市場調査 2020」(一社)アート東京・(一社)芸術と創造

多様なジャンルの美術品でなりたつ日本の美術品市場

ジャンル別の美術品の市場規模は、洋画(603 億円)、日本画(358 億円)、陶芸(449 億円)、現代美術(平面)(264 億円)に、版画(186 億円)が続きます。昨年の日本画、洋画、陶芸という順から大きく変化していますが、日本の美術品市場は洋画、陶芸、日本画、現代美術、書、工芸など、多様なジャンルや時代の美術品によって支えられている市場であることが、改めて分かります。また、グッズなど美術関連品は 379 億円となっています。

図表 3 ジャンル別の美術品・美術関連品市場規模¹

(n=23,706)



現代美術合計※
373億円

※現代美術 (平面)、現代美術 (立体、インスタレーション)、写真、映像作品をあわせたもの。

美術関連品
379億円

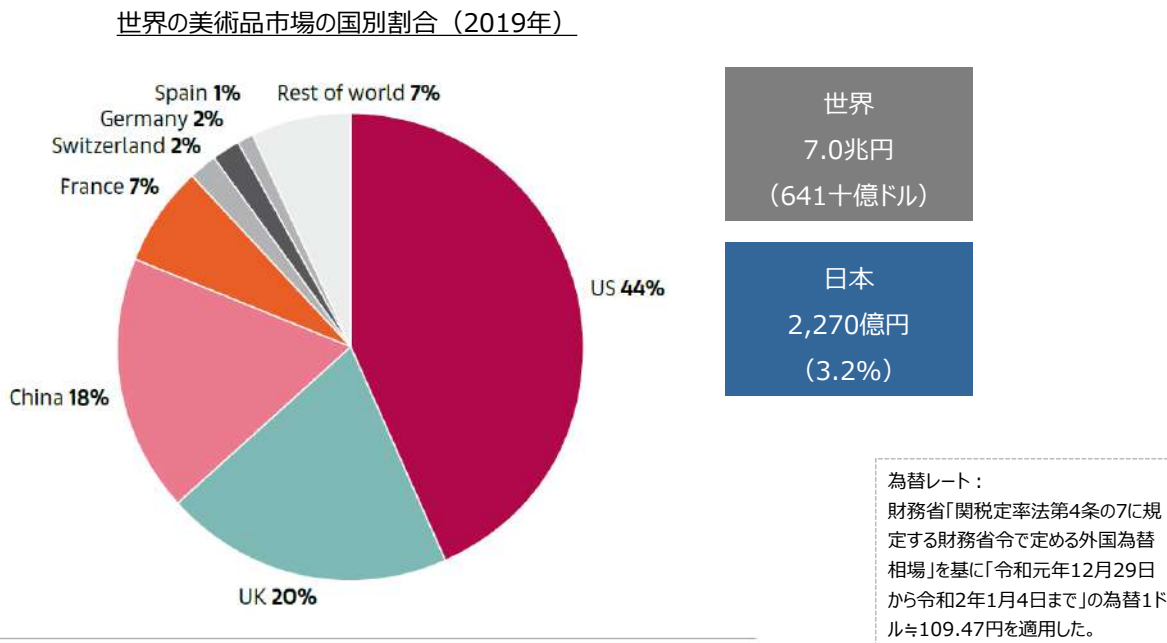
出所)「日本のアート産業に関する市場調査 2020」(一社)アート東京・(一社)芸術と創造

¹ ジャンル別の数値には重複が含まれるので、ジャンル別の美術品購入額合計はチャネル別の美術品購入額合計と数値が異なることに留意されたい。

世界の美術品市場における割合

日本の市場規模の世界全体に対する割合について、2018年では2.8%と推計しておりましたが、本調査の国内事業者の市場規模である2,270億円について2019年の世界の市場規模（7.0兆円）に対する割合を計算すると3.2%となり、前回より世界でのプレゼンスが上昇したと言えます。

図表4 各市場規模の推移



© Arts Economics (2020)

出所) Art Basel and UBS_The Art Market 2020

世界の美術品市場調査期間: 2019年1月~12月

本調査期間: 2019年10月~2020年9月

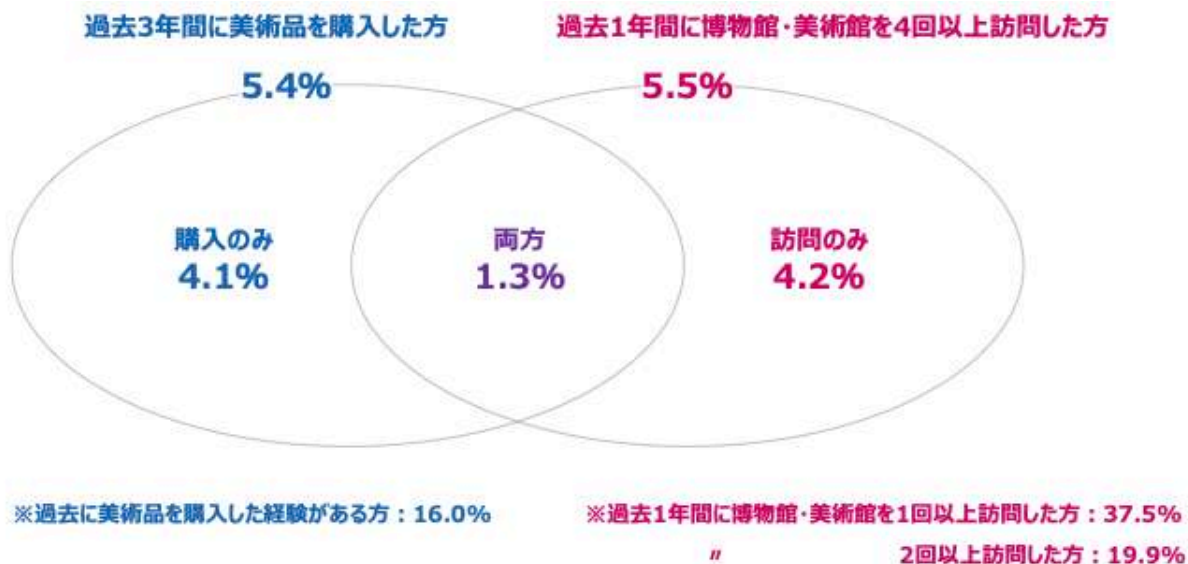
出所)「日本のアート産業に関する市場調査2020」(一社)アート東京・(一社)芸術と創造

美術品購入と博物館・美術館訪問の状況

「日本の美術館来場者数は世界のトップクラスであるのに美術市場が小さい」と言われています。今回、展覧会の美術市場への寄与を調査するべく、美術品を購入した方と博物館・美術館へ多く訪問した方について調査したところ、過去3年間に美術品を購入した方と過去1年間に博物館・美術館を4回以上訪問した方との重複はほとんどありませんでした。

図表5 美術品購入と博物館・美術館訪問の状況

(n=23,280)

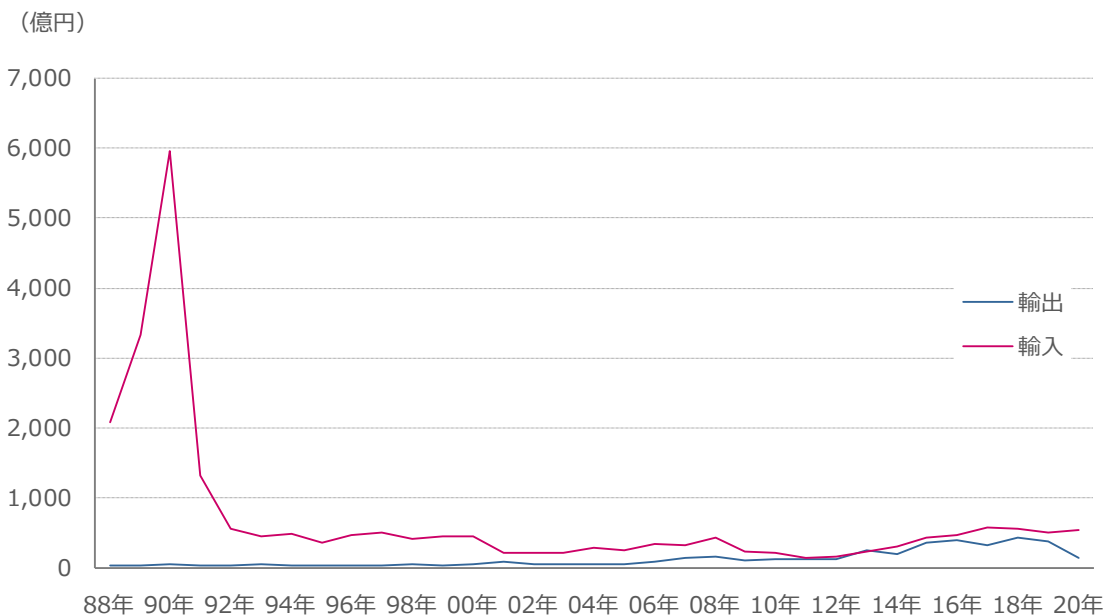


出所)「日本のアート産業に関する市場調査2020」(一社)アート東京・(一社)芸術と創造

美術品の輸出入額の推移

本調査は国内美術市場についての分析を目的としていますが、アーティストにとっては海外市場も対象となります。国内調査と合わせて美術品の輸出入額推移調査によると、2020年は輸出がかなり減じる結果となりました。

図表6 美術品の輸出入額の推移



出所)「日本のアート産業に関する市場調査2020」(一社)アート東京・(一社)芸術と創造

アート東京は、日本のアート産業市場の実態を正しく把握し、今後のアート産業の振興のための様々な施策を検討するため、今後も継続的に同調査を実施します。特に、動向調査に留まらず、今回の価格についての調査など、今後も分野を広げて調査する所存です。調査結果は、国内外のアート産業関係者を超えて、多くの産業がアートに係わる事業展開を行う指標としても効果的に活用されることを目指すとともに、関係各機関と連携し、地域経済の発展や、芸術文化の振興に繋がってゆくことに寄与して参ります。

本調査の基本設計

調査方法	インターネットアンケート会社が契約するモニターを対象としたアンケート調査
調査時期	2020年9月25日(金)～9月29日(火)
調査対象	1次調査: 政府統計を基に、性・年代、職務状況(有職/無職)、年収(有職者は個人所得、無職者は世帯所得)を日本全体の分布に近い形で割付 2次調査: 以下の条件を全て満たす方 過去3年間で美術品を10万円以上購入した方 ※ただし、地域ごとに目標数を設け回収
有効サンプル数	1次調査: 23,706 サンプル 2次調査: 100 サンプル(各地域別調査)

調査概要

調査名称	「日本のアート産業に関する市場調査2020」 “Japanese Art Industry Market Research Survey 2020”
レポート名称	「日本のアート産業に関する市場レポート2020」 “Japanese Art Industry Market Research Report 2020”
主催	文化庁、一般社団法人 アート東京
企画・制作	一般社団法人 アート東京
調査協力(共同調査)	一般社団法人 芸術と創造 株式会社QUICK
事業名称	文化庁委託事業「2020年度次代の文化を創造する新進芸術家育成事業」

日本のアート産業に関する市場調査 web サイト: <https://artmarket.report/>

本調査に関するお問い合わせ マネージングディレクター : 北島 輝一 (キタジマ)
嶋岡 紘志 (シマオカ)

リリースに関するお問い合わせ 広報担当: 松田 沙友里 (マツダ)

〒106-0041 東京都港区麻布台 1-9-12 飯倉台ビル4階 一般社団法人 アート東京

Tel: 03-5797-7912 / Fax: 03-5797-7913 E-mail: press@artfairtokyo.com